

# ミステリ読書案内

2023. 3. 4 発行元

第453号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 小森収「明智卿死体検分」

昨年(2022)の12月に東京創元社から出た本。新刊書店でたまたま見かけたので買った。発行部数はそれほど多くはないのではないだろうか。かなりマニアックな本だと思う。それなりの楽しみ方で読めばよいと思う。

### パラレルワールドとして

題名からして面食らう。『明智卿って誰のことだ?』何となく江戸川乱歩の明智小五郎を連想してしまうのだが、どうも違うようだ。そして内扉を開くと更に面食らう。「この小説はランドル・ギャレットの『ダーシー卿』シリーズからインスパイアされている」と書かれているのだ。『魔術師が多すぎる』などの魔術世界の作品だということである。これでまたまた読者は混乱してしまう。「一体どういうこと?」

この物語の設定を理解することが、本書の一番のミステリな部分である。「特殊設定ミステリ」どころでなく、全くの異世界、パラレルワールドだということを知ることが頭の中を振り上げていかなければ…。

### 小森収という作家はどんな人?

私も不勉強なもので、小森収という作家をまったく知らなかった。私よりは少し若いようだが、ほぼ同年代に近いかもしれない。演劇評論家や文芸書の編集に携わってきたと

書いてある。創元推理文庫から右上に示したアンソロジーを出したそうなので、古今のミステリに通じていてかなり造詣が深い人のようだ。

ミステリマニアだということは何の部分を読んでも感じる。本書に書かれていることを100%近く理解できる人はかなりの「読み手」であることが証明される。

詳しく書いてしまうとネタバレになってしまうだろうからあまり触れはしないが、歴史上の出来事についても基礎知識があった方がより楽しめると思う。「その時に捕らえられた黒田様と摂津守のことを書いた書物が、売れに売れた」と書いてあって笑わせる。

### 四阿いっばいの雪の中で凍死

メインとなる事件は、四阿いっばいに詰まった雪の中で凍死していた死体である。どんなトリックが使われたか? ただ問題は、「魔術」が使えるということ。日本風に陰陽師として登場してくるが…。

探偵役は織田家家家臣で権刑部卿の明智小左郎光秀。ワトソン役は公

### 「短編ミステリの二百年」

小森収が編者となって世界のミステリの中から短編傑作ミステリを選び出したアンソロジー。全6巻。日本推理作家協会賞を受賞したという。実のところ、私は実物をまだ手にしていないので、これ以上のことを紹介できない。

### 「世界推理短編傑作集」

創元推理文庫と言えば江戸川乱歩編の『世界推理短編傑作集全5巻』が有名。1960年から刊行が始まっている。もうすでに60年以上の昔。私は世界の名品をこのシリーズで読んだ。フットレルの『十三号独房の問題』など……。

家で上級陰陽師の安倍天晴。世界中に奔馬性肺壊疽という病気が流行っている時期。訪ねた場所が「蒲生邸」。いずれも何かを連想させるものばかり。登場人物も皆敵とも味方とも言えない策士揃い。

明智自身は陰陽師ではないので、仕掛けられた封印などに手こずりながらも、各人の立場を分析し、犯人探しに前進していく。真犯人の報告は帝宛ての手紙で…。なかなか難しい判断だ。真相が明らかになり、犯人の逮捕は…。

## 豊田巧「RAIL WARS! Exp 警四☆トロピカル戦線!」と「A2 美女と散弾銃」

たまたま新刊書店のライトノベルス・コーナーを見ていて発見した本。実業之日本社から出版されている『Jノベルライト文庫』から『RAIL WARS! 日本国有鉄道公安隊』というシリーズが20冊出ているようだ。私が買ったのはその番外編と新シリーズ2冊目。発行部数はかなり絞られているのではないかとと思う。

豊田巧と言えば『鉄血の警視』や『鉄警ガール』『信長鉄道』など鉄道ミステリの書き手として知られた作家だが、ライト系でも活躍しているようだ。本シリーズも「特殊設定ミステリ」で、国鉄(日本国有鉄道)が分割民営化されずに(JRにならずに)存続し続ける設定になっている。なおかつ、「公安隊」が組織されていて、武器も所持していて派手な攻防戦が繰り広げられるのが特徴。まあ、ライト系なので、若者中心にアクションが展開される。巻によってはミステリの要素が入って、誘拐事件になったり、列車に爆発物を仕掛けられたりするが、大筋はドタバタ劇に近い。コミカライズされて、マンガになっても十分に面白さが伝わる形式。今回読んだのは去年あたりに出たものだが、それ以前の作品はどこかで(安く)手に入るのだろうか。メインのキャラクターがどんな活躍をしているのかとったりもする。気軽にスピード感を持って読めるので…。